

各位

2023年2月10日

コスモエネルギーホールディングス株式会社の第3四半期決算説明会について

株式会社シティインデックスイレブンス

コスモエネルギーホールディングス株式会社（以下「コスモ」といいます。）は、2月10日に第3四半期決算説明会（以下「決算説明会」といいます。）を行いました。決算説明会においては、複数のアナリストから、第七次中期経営計画や再生エネルギー事業についての質問がありました。特に再生エネルギー事業については、リターンの目線や投資基準、採算基準についても開示がないことについての指摘がありました。

ご存知の通り、コスモは3月23日に新中期経営計画の開示を予定しております。決算説明会では、植松専務から第七次中期経営計画について「中期経営計画では必要自己資本について、各事業の今後の成長・リスクの観点と、格付けの観点から示したい。」「上場企業におけるPBR1倍割れは問題となっており、これについて会社として認識し、どういった形で企業価値向上に結び付けるかを、中期経営計画において示したい。」というコメントがありました。弊社としては、コスモがPBR1倍以上の株価を実現することを強く望んでいますが、現状の経営陣の下でそれを実現することができるのか大いに疑問に思っております。

山田常務は、再生エネルギー事業に投資を行うことを理由に現在の目標自己資本額4,000億円を超える自己資本額の拡大の必要性を弊社に訴えてきましたが、再生エネルギー事業については、決算説明会でもアナリストから「再生エネルギー事業のリターンの目線や採算基準を開示しないのであれば第七次中期経営計画を評価することはできない。」という指摘がありました。弊社も同様の認識です。

コスモは、再生エネルギー事業のうち既に運転が開始しているプロジェクトに関してさえも、リターンの目線を開示しておらず、弊社が過去に何度も、再生エネルギー事業の投資基準について質問してもご回答いただけませんでした。コスモがこのように再生エネルギー事業についてまともな開示も行わないまま、再生エネルギー事業の拡大を理由に自己資本を拡大することは、到底許されるものではありません。

弊社といたしましては、コスモが第七次中期経営計画において株主の皆様に適切な説明責任を果たさないまま自己資本を拡大する方針をとるなどして株主価値を毀損することがないように、株主として引き続き、建設的な対話を通じてコスモに働きかけていく所存です。

以上